

I 伐採、造林、保育その他森林の整備に関する基本的な事項

1 森林整備の現状と課題

本市は、九州の東北端に位置し、東は周防灘、北は関門海峡と響灘、西は遠賀川周辺の農村地帯、南は筑豊・京築の田園地帯に面している。

東部には風師山（362m）・足立山（598m）等の山塊、響灘の南には石峰山（302m）等の山塊、洞海湾の南部の皿倉山（622m）から市域南部の尺岳（608m）・福智山（901m）等に連なる山塊、周防灘西部には貫山（712m）、カルスト地形の平尾台等の山塊が広がっている。

森林は市域の約4割を占め、また、市域内には200kmを超える長い水際線と300を超える河川を有するなど、市街地の周辺は豊かな自然に恵まれている。

本市の総面積49,169haのうち森林面積は18,531haで、総面積の38%を占めている。民有林面積は15,658haで、そのうちスギ・ヒノキ等の人工林の面積は4,579haであり、人工林率は29%で県平均63%を大幅に下回っている。

また、森林所有者の約7割は経営規模が1ha未満の小規模所有者で構成されていることや、木材価格の低迷などにより昭和50年代以降の林業活動が停滞している。

人工林の齢級別森林資源構成は、41年生以上の林分が3,925haで、人工林の85%と大半を占めており、利用期を迎えていたため、今後、主伐による森林の世代サイクルの回復を促すことが求められる。加えて間伐を適正に実施し、健全な森林を育成するとともに、路網の整備、施業集約化の促進、人材の育成、林業機械化の促進など、林業生産活動が積極的に実施できるような体制を整備する必要がある。

こうしたなか、平成31年4月に施行された森林經營管理制度の一環で取り組む、森林所有者への意向調査の結果を基に、施業委託による林業が可能な森林を抽出し、森林經營計画による施業の集約化を図ることで木材生産の促進し、これまで積極的に行われてこなかった「伐って（全伐）、使って、植える」という森林の循環利用を行うとともに、林業の担い手の技術的な育成の手助けを図っていく。

また、民有林面積の約1割を占める竹林は、周辺の森林に侵入し、年々拡大しているため、こうした放置竹林を解消する取り組みを推進する必要がある。

本市では、平成31年3月に航空写真等から竹林の分布状況を識別し、傾斜等の情報と合わせて全市的にデータ解析を行っており、これを基に優先性の高い竹林において、市主体の竹林整備を進めていく。また、立地性の高い竹林においてNPOや事業者主体の竹材利活用を推進するため、竹材利活用の事例等の情報収集・提供、事業者同士のマッチング等を図っていく。

本市の森林は、住宅地に隣接した急傾斜地、地域住民の生活に密着した里山、林業生産活動が積極的に実施されるべき人工林帶、さらには、森林レクリエーションとして利用されるべき樹林帶、竹林とバラエティーに富んだ林分構成になっている。

これらの森林は、林産物の供給、水源の涵養、山地災害の防止機能などの発揮を通じ

て、地域住民の生活に深く結びついてきたところであるが、近年、住民生活の向上や価値観の多様化、地球温暖化対策や生物多様性に係る国際的動向等を背景として、CO₂吸収源としての役割をはじめ、気象緩和、自然環境の保全、保健文化的な役割、など多面的な機能の高度発揮が一層期待されている。

このような期待の高まりに応え、森林の有する多面的機能の持続的な高度発揮を確保していくため、生態系としての森林という認識のもと、重視すべき機能に応じた森林資源の整備に努めることが重要な課題となっている。

こうした課題と本市の実情を踏まえて、各地区にあっては以下の方向で森林整備を推進する。

本市の森林は、位置や林分から大きく5つの地区に区分される。

(ア) 企救山系（門司区・小倉北区・小倉南区の北東部）

企救山系の森林は、住宅地の背後に位置し、傾斜は急で、尾根周辺は造林に適していない脊悪地が多い。また、地区内には水源池を有する。

人工林率は市平均を下回り、松ヶ江水源池周辺等一部の地域を除き林業生産活動は停滞している。

このようなことから、住宅地背後の森林は、山地災害の防止機能を高度に発揮することとし、施業方法は長伐期施業又は複層林施業とし、自然環境の保全を重視する。

また、松ヶ江水源池周辺の森林については、水源の涵養機能高度発揮のため、間伐を適正に実施し、健全な森林の整備を推進する。

さらに、住宅地に近接した足立山や高蔵山の森林は、市民の森林レクリエーションや憩いの場としての活用を推進する。



松ヶ江貯水池（門司区）



高蔵山森林公園(小倉南区)

(イ) 貫山系(小倉南区の南東部)

貫山系の森林は、昭和50年代から原野に拡大造林が行われた結果、人工林率は50%を超え、本市の中で人工林率が最も高い地区である。

また、貫山線林道をはじめ、他地区に比べて路網が整備されている。

一方で、竹林が多い地区でもあり、放置竹林が荒廃した人工林を侵食している。

このようなことから、今後は施業集約化や林業機械化の促進を図り、森林の適正管理や木材生産活動を推進するとともに、放置竹林については、樹種の転換やタケノコ生産竹林への転換を推進する。

なお、地区の南部に位置する平尾台地区については、希少な生物が生育・生息しており、自然環境の保全に配慮した長伐期施業又は複層林施業を実施する。



基幹林道貫山線(小倉南区)



井手浦線(小倉南区)



平尾台(小倉南区)

(ウ) 尺岳～福智山系（小倉南区の南東部・八幡西区の南部）

尺岳～福智山系の森林は、昔からスギ、ヒノキの造林が盛んに行われ、現在の人工林の齢級構成は40年以上が大半を占めているが、路網の整備の遅れ等により林業生産活動は停滞している。

また、竹林が多い地区でもあり、放置竹林が荒廃した人工林を侵食している。

このため、路網の整備、施業集約化及び林業機械化の促進を図り、森林の適正管理や木材生産活動を推進するとともに、放置竹林については、樹種の転換やタケノコ生産竹林への転換を推進する。

特に、当地区の北西部に位置する合馬地区は土質を活かした高品質のタケノコの产地として全国的に有名で、現在大阪・京都の関西市場へ出荷されている。今後も高品質のタケノコを生産するため、客土や伐竹を継続して実施し、竹林の適正管理を推進する。

また、当地区の南東部に位置する鰐淵ダム周辺及び南西部に位置する畠貯水池周辺の森林については、水源の涵養機能高度発揮のため、間伐を適正に実施し、健全な森林の整備を推進する。

さらに、当地区の西端部に点在する香月市民の森は、住宅地内に残存する貴重な森林であり、住民の憩いの場としての活用を図る。



管理竹林(小倉南区合馬)



放置竹林 (小倉南区)



香月市民の森 (八幡西区)

(エ) 石峰山系（若松区）

石峰山系の森林の北側斜面は響灘に面し、南側斜面は住宅地の背後に位置している。

北側は風衝地であり、海岸線付近の森林の一部は防風保安林に指定されている。

また、南側の斜面は急であり、尾根周辺は造林には適していない脊悪地が多い。

このようなことから、山地災害の防止及び快適環境形成機能の発揮が強く求められる地区として位置づけられる。

自然的条件が良好ではないため、昔から林業生産活動は停滞しており、人工林率は市平均を下回り、その結果、北側、南側とも放置竹林が広がっている。

このため、住宅地背後の森林は、山地災害の防止機能を高度に発揮するため、長伐期施業又は複層林施業を実施する。

また、放置竹林については、侵入竹の伐採や樹種転換を推進するなど、健全な森林への再生を図る。



人工林への侵入竹(若松区)



海岸線防風保安林(若松区)

(オ) 皿倉山系（八幡東区・八幡西区の北部）

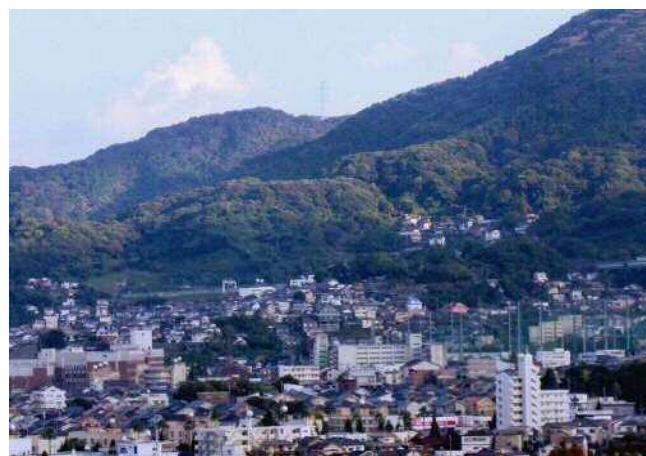
皿倉山系の森林の北側は住宅地の背後に位置し、傾斜は急である。また、市民にとって身近な森林として、昭和30年代から森林レクリエーションや憩いの場として利用されている。

このようなことから、山地災害の防止、保健レクリエーション機能の発揮が強く求められる地区として位置づけられる。

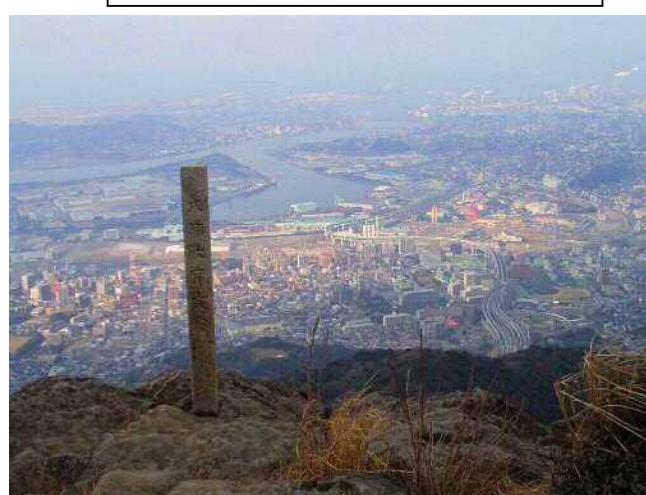
人工林率は市平均を上回っているが、急傾斜であり、また、住宅地に隣接しているため、主伐は停滞しており、60年生以上の森林が大半を占めている。

このため、住宅地背後の森林は、山地災害の防止機能を高度に発揮することと自然環境の保全を重視することとし、施業方法は長伐期施業又は複層林施業とする。

また、皿倉山系の森林の南側は放置竹林が荒廃した人工林を侵食しているため、放置竹林の樹種転換をするとともに人工林の適正な管理に努め、健全な森林への再生を推進する。



住宅地に隣接した森林（八幡東区）



皿倉山国見岩眺望（八幡東区）